

製品名: 7B2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06349**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	23kDa

抗原情報

遺伝子名	SCG5 SGNE1
別名	
遺伝子 ID	6447.0
SwissProt ID	P05408
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。AA 範囲: 90-170

背景

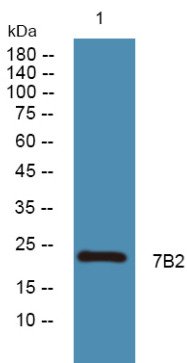
この遺伝子は、神経変性疾患や代謝性疾患に関連するタンパク質を含め、他の分泌タンパク質の凝集を防ぐ分泌シャペロンタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、プロホルモン転換酵素 PC2（遺伝子 ID: 5126 でコード）の輸送と活性化に

おける役割で最もよく知られています。コードされているタンパク質のリン酸化は、シャペロン機能に対する阻害効果を持つことが示されています。[RefSeq 提供、2016年7月]機能: PCSK2/PC2 の分子シャペロンとして機能し、調節された分泌経路における早期活性化を防ぎます。小胞体で不活性な PCSK2 に結合し、そこから分泌経路の後のコンパートメントへの輸送を促進し、そこでタンパク質分解によって成熟および活性化されます。PCSK2 の切断にも必要ですが、フォールディングには関与していないようです。下垂体ホルモン分泌の調節に関与する。C 末端ペプチドは in vitro で PCSK2 を阻害する。、PTM: ゴルジ体においてフューリン様転換酵素によってタンパク質分解され、生理活性ペプチドが生成される。、PTM: チロシン残基が硫酸化されている。、類似性: 7B2 ファミリーに属する。、細胞内局在: 神経内分泌および内分泌分泌顆粒。、サブユニット: 分泌経路の初期段階で PCSK2/PC2 と相互作用する。その後の段階で解離する。、

研究分野

-

画像データ



K562 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、7B2 ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩